

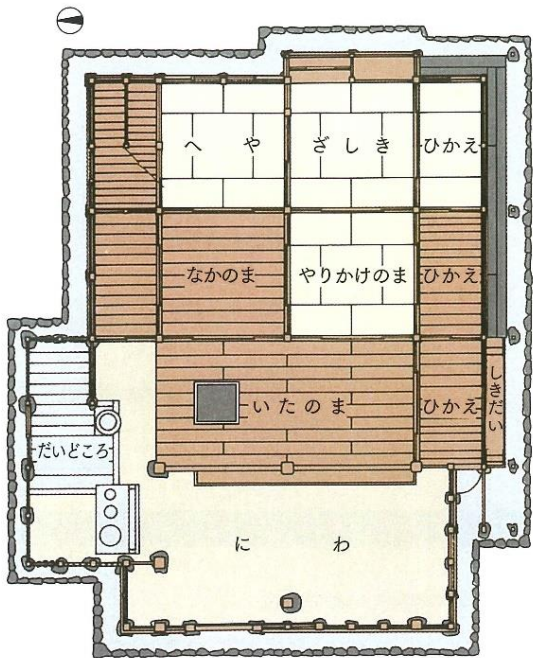
重要文化財 旧瓜生家住宅 ㊶

旧瓜生家住宅は、神明社境内にあり、現存する福井県民家の中で最も古く、質の高い民家です。瓜生家は、代々神明社の宮司を勤めてきた家柄で、その系図は、大治四年（一一二九）から始まっています。この住宅は、解体修理の際に「ざしき」の天井棹縁から墨書が発見され、それによると元禄十二年（一六九九）ごろに建てられたことがわかりました。また、柱礎石の亀裂などから、元禄初年ごろに火災により焼失したため、再建されたものと考えられます。

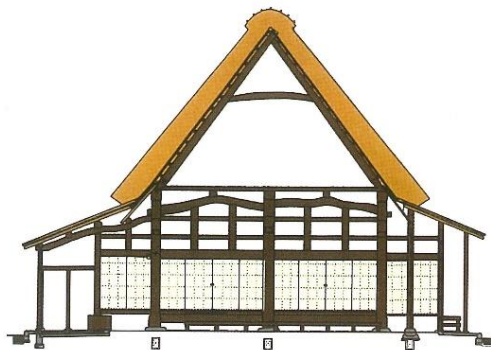
主屋は、桁行九間、梁間六間、入母屋造、茅葺で、妻入の建物です。平面は前面に奥行二間半の土間があり、さらに間口いっぱい奥行二間の板の間を配し、その奥に左右二室ずつ計四室がならび、さらに左右に一間の入側がついています。奥の四室を田の字形に配する間取りは、この地方としては珍しいものです。また、当初は「ざしき」の奥にもう一室あったことが天井棹縁銘からわかっています。

構造は、棟下通りに柱がたち、梁間四間を上屋、左右一間を下屋にする単純なもので、柱根部分がふくらんでいるのもこの住宅の特徴です。各柱や梁は木割が太く、柱の立ちも高く、堂々とした風格があります。

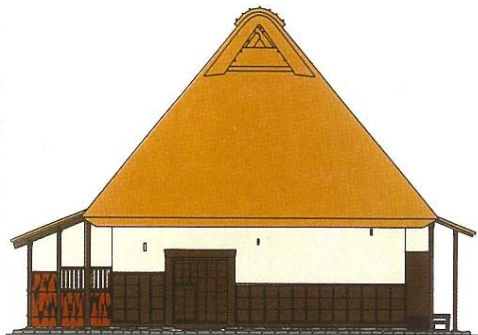
基本的には、一般民家の構造をとっていますが、入側部を設けて座敷まわりを整備している宮司の住まいとしての特殊性がみられ、当時の地方宮司の住宅形式を知る上で価値が高いものです。



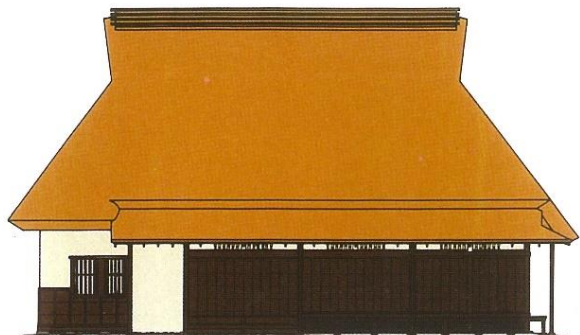
平面図 S≒1/150



梁間断面図 S≒1/210



正立面図 S≒1/210



南側立面図 S≒1/210